

令和 7 年度 実施施策に関する

教育行政に関する点検・評価報告書

令和 8 年

磐梯町教育委員会

目次

第1章 総論	3
第2章 教育行政の概要	3
第3章 教育振興の基本的な考え方	5
第4章 重点施策ごとの点検（評価）	6
第5章 総括と今後の展望	18

（別冊） 参考資料

磐梯の教育 0-15 教育基本構想

令和7年度 「磐梯の教育」 学校運営協議会

令和7年度 生涯学習・生涯スポーツ事業実施状況報告

史跡恵日寺跡 整備基本設計書

【磐梯町 教育行政に関する点検・評価報告書】

評価対象期間：令和 7 年度

評価実施主体：教育長、教育委員

評価公表時期：令和 8 年 9 月

評価の目的：磐梯町の教育施策の透明性・説明責任を高め、町民とともに教育を創造していくための基礎資料とする。

第 1 章 総論

1-1 法的根拠と点検評価の位置づけ

本報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規定に基づき、磐梯町教育委員会が重点事業等の執行状況について、毎年度点検・評価を行い、その結果を議会及び町民に公表するものである。

1-2 評価の基本方針

- 自己点検・自己評価による透明性の確保

点検方法 実施状況による

区分 ○→達成できた △→一部達成できなかった ×→達成できなかった

その他、実施回数、参加状況等の数値及び状況説明を記載

- 重点施策への進捗確認と改善点の抽出
- 町民との協働を前提とした教育行政の実現

第 2 章 教育行政の概要

2-1 教育委員会の構成（令和 7 年度）

- 教育長 ：中川 綾
- 教育委員：玉水まどか職務代理者、鈴木修一委員、南部あゆみ委員、宮森優治委員（計 4 名）

2-2 教育委員会の開催状況

開催日	回数	主な議題
令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月	定例 12 回・臨時 4 回	人事・法規・予算・契約 など
議事録の公開	3 月に公開	

2-3 教育行政組織体制（事務局）

- 教育課
- 文化生涯学習課
- 教育再デザインセンター

2-4 総合教育会議の実施

開催日	主な議題
令和 8 年 1 月	「まちの方針や基本構想を町民に浸透するためにできることは何か」

令和 7 年度は 1 回のみの実施となってしまったため、令和 8 年度は 2 回実施したい。

2-5 教育アドバイザー会議の実施

開催日	主な議題
令和 7 年 11 月	「ばんだいの森構想について」、「校務用スマホの導入について」 「こども園 園庭の整備について」

令和 7 年度は 1 回のみの実施となってしまったため、令和 8 年度は 3 回実施したい。

2-6 あたらしい磐梯の教育の発信

内容	実施状況
教育委員会の活動の広報	○
note への移行準備	△
各学校 HP の note への移行準備	○

【振り返り】

・教育委員会の活動の広報

ほぼ毎月教育長だよりを発行した。また、定例教育委員会の議事録の公開もはじめることができた。しかし、共有の時期が遅くなることも多く、来年度はもう少しこまめに共有ができるような仕組みを考える必要がある。教育委員会も note を活用するので発信は紙媒体から移行する。

・note への移行準備

FCS 教育ポータルにて公開していた内容や公開の仕方に関して移行する場合の適切な形を協議しながら移行した。公開に至る基盤は固まってきているので全体的な表示する項目自体や細かい運用の方針については公開しながら変更していける範囲であると認識している。

・各学校 HP の note への移行準備

引き継ぐべき項目の移行は完了している。学校側からの意見がある場合そちらを吸い上げて反映させていく必要はある。

第3章 教育振興の基本的な考え方

磐梯町では、0 歳から 15 歳までの連続した成長に寄り添い子どもと大人が共に歩む場作りを軸に、「多様性と包摂性があたりまえにある世界を、子どもと大人がともにつくる」ことを教育理念とする「0-15 教育基本構想」を掲げている。この理念の具体化に向けて、次の3つを「磐梯町の教育で大切にすること」として位置づけ、重点施策を展開している。

- 子どもも大人も、多様性と包摂性の中で生活すること
- 子どもが自分に合った「学び方」や「学びの環境」を選べること

- 大人も「おらが町の学校」をつくりながら学ぶこと

資料:磐梯の教育 0-15 教育基本構想

第4章 重点施策ごとの点検（評価）

4-1 スクールコミュニティの醸成

4-1-1 コミュニティスクール（学校運営協議会）の実施

内容	実施状況
各校実施状況	9回
協議会委員の参加状況	80%

資料:令和7年度「磐梯の教育」学校運営協議会

【振り返り】

学校運営協議会の昨年度の振り返りをもとに、学校評価アンケートの教職員との合同作成、各学校における教職員との合同会を実施した。対話型で1年間一貫して実施し、大人の対話会としても機能した。委員の参加率が高く、委員を引き続き継続してくれる方も多く、事業の継続性が担保されている。

令和8年度は、学校運営協議会の役割の各教職員への周知を高め、教職員の参画度の向上をはかるようにしたい。また、各学校園のビジョンと現実の乖離を少しでも埋められるよう具現化が促進できるよう話し合いを深めていきたい。

4-1-2 地域学校協働活動

内容	実施状況
会議実施状況	8回
委員の参加状況	80%
地域学校協働推進員向け研修の実施	1回

【振り返り】

昨年度からスタートした、小学生向けの放課後のあそび場運営やスポーツができる場の提供などを継続することができた。また、今年度は中学校の部活の地域展開という課題に対して、磐梯町ならではの形を模索し、認定地域クラブの立ち上げ準備に地域学校協働本部が中心となっておこなうことができた。実際の運営は来年度となるが、積極的なアイデアと実行力のある組織になってきている。

4-1-3 磐梯版ネウボラの導入

内容	実施状況
オンラインでの安全な情報共有の仕組みの整備	状況説明

【状況説明】

「磐梯版ネウボラに携わる者がそれぞれ保有する情報（子ども達に関する情報）を共有する場があるといいね。」という積年の課題解消の為、閉鎖された空間の中で関係者だけが情報共有できる仕組みを検討、teams に「磐梯版ネウボラ」のチームを作成し、関係者だけしか共有できない空間の中で、学校別に情報を共有。学年が変わっても子どもの情報を取得することができるよう、データの保管方法にも注意しながら閉鎖された空間での情報共有の場を作ることができた。

【振り返り】

オンライン上での安全な情報共有の仕組みを構築し、関係者相互に情報の共有化を図ることはできたものの、情報提供する側に偏りが出てしまった。

年度末に振り返りの場を設け、情報共有する仕組みの問題点を洗い出し、今後も継続可能な情報共有の仕組みを改めて検討し、実践していく。

4-1-4 地域行事 X 学校行事

内容	実施状況
学校運営協議会 x 地域学校協働活動（放課後あそぼうよ会/ばんだいキッズスポーツ）	○
磐梯町文化祭 x 学習発表会	△
町民体育祭 x 学校運動会	△

【振り返り】

学校運営協議会と地域学校協働活動の会議を同じ日の別時間に行うことで、連携を密にすることもできた。また、放課後活動に関しても検討を深めることができ、地域学校協働員の方々による放課後活動が土台となり、中学校の「えらべる放課後」の仕組みづくりにも繋げることができた。

また、学校行事と町行事の日程を近づけたり、中学生が町行事の運営に参画できるようになるための下準備をする1年でもあった。来年度は具体的に動いていくので、トライアンドエラーを繰り返しながらより良い地域学校協働活動を活発化させていきたい。

4-2 大人と子どもの学ぶ環境づくり（誰にとっても学びやすい環境づくり）

4-2-1 学校と地域が連携したまちづくりの推進

社会教育（文化事業）

内容	実施状況
健康講座	○
料理講座	○
ものづくり講座	○
磐梯の文化遺産ワークショップ	○
磐梯大学	○
公民館特別講座	○
20歳の集い	○
文化祭	○
体験活動・ボランティア活動推進事業	○
まなびときばんだい（学習スペース運営）	状況説明
プログラミングコンテスト	x
公営塾	○
プログラミング教室（小中学校）	○

資料：令和7年度 生涯学習・生涯スポーツ事業実施状況報告

【状況説明】

・各講座や企画運営について

- 磐梯大学で二小の学習発表会へ参加し、世代間交流を実施した。
- ばんだいっ子クラブで、中学生ボランティアがリーダーとして活動し、社会性を育んだ。
- 文化祭で各種講座参加者のボランティアを募り、自主的な活動とした。
- 料理講座では、生涯学習の目的に添い、家庭・地域と連携を図れるような栄養価に特化した講座内容とした。
- 講座からサークル化への自主的な活動を促す目標があるが、モルック講座では、次年度サークル化設立の目標が達成できた。

・まなびときばんだい

もともとは交流ホールのみが「まなびときばんだい」として利用できる範囲であったが、まなびときばんだいの運営目的を改めて整理し、令和7年度6月に交流館と交流ホールを結ぶ廊下もまなびときばんだいとして利用可能となり、今まで以上に多様な自習スタイルに対応できるようになった。具体的には、交流ホールは静かにまなぶスペース、廊下部分は友達やスタッフと話しながらまなぶスペースとしての利用が可能となった。

夏休みと冬休みの期間中に学習イベントを開催し、小中学生の学習意欲増進を図った。また、同期間中に遊びを中心とした交流イベントを行い、異年齢交流の場を設けた。

【振り返り】

・各講座や企画運営について

おおむね、世代間交流や学習要素が多く含まれる講座を開催できたと思うが、次年度以降にむけて、学校や地域と連携したより良い講座計画の検討を行う。また、新たに文化生涯学習課となったことから、各係間で協力した事業の計画を作成したい。

・まなびときばんだい

施設内の利用可能範囲の拡大について：利用者の様々なニーズに対応できるようになり、利用者の増加につながった。しかし利用方法の周知やルールの整備が不十分な部分もあったため、今後利用方法の周知徹底や館内掲示物の見直し等を行う。

各イベントについて：冬期間の交流イベントは実施日に悪天候が重なり、思うように参加者が集まらなかった。イベントを企画する際には天候含め、様々な情報をもとに日程等を検討していく。

社会教育（スポーツ事業）

内容	実施状況
おおるリンピック	△
ロードレース大会	○
お盆野球大会	×
町民体育祭	○
町スポーツ協会主催事業	△

資料：令和7年度 生涯学習・生涯スポーツ事業実施状況報告

【振り返り】

- おおるリンピック・町主催事業では一部開催できない競技があった。
- お盆野球大会は、申し込みが1チームのため中止した。
- ロードレース大会・町民体育祭は予定通り開催できた。

どの事業も参加者が増えるよう、実施要項の緩和や募集期間の延長をしていきたい。

4-2-2 誰にとっても学びやすい環境づくり

内容	実施状況
不登校児童生徒への取り組み	△
児童生徒の学習 DX のための整備	○
施設管理	○
ラーケーションの導入	○
特別支援教育アドバイザーの配置	○

【振り返り】

- ・ 不登校児童生徒への取り組み

福島県が今年度から市町村にも活用範囲を広めた roomF を当該児童に繋げることができた。また、スクールソーシャルワーカーとの連携を継続し、フリースクールなどとの連携も進めていく必要がある。

- ・児童生徒の学習 DX のための整備
- 経年による端末及び周辺機器の故障等の対応のほか N E X T G I G A の一人一台端末の整備を行った。
- 各種 I C T ツールの導入や運用支援、研修等を行い、教職員の負担軽減を図った。
- 特別支援教育アドバイザーの来校と子どもたちへの関与により、「少しずつ」教職員の意識が変わるきっかけになっている。

4-2-3 学校選択制の導入

内容	実施状況
説明会、見学会の実施	○
学校選択希望調査の実施	○
通学手段に関する整備の実施	○

【振り返り】

- ・説明会・見学会・希望調査

PTA 総会時に、学校選択制について説明するとともに、6 月及び 10 月に各小学校での見学会を実施、最終希望調査を 11 月に実施し希望者の集約を行った。

- ・学校選択制

学校選択制に伴い一小から二小に転校する児童のため、二小に向かう交通手段を確保。ご家庭へ直接説明に伺うことで登下校時の交通手段に対する不安を解消することができた。ただ、年度末までバス利用者の調整等に時間を要してしまい、もっと早期に行政経営課・バス会社との調整やバス利用者の確認等図るべきだった。

4-2-4 特色ある学校園作りへの支援

内容	実施状況
各学校への教育プロジェクトマネージャーの配置	状況説明
各学校園への研修サポートの実施	状況説明

【状況説明】

・各学校への教育プロジェクトマネージャーの配置

小学校2校、中学校1校に、1名ずつ教育プロジェクトマネージャーを配置した。特色ある学校づくりの実現のために、校長教頭研究主任等とも連携をし、授業づくりや授業研究の推進とファシリテーター役として活動した。「特色をより深めていくためにも必要な存在だった」と話してくださる校長もあり、少しずつ「選択肢になりえる」特色について理解が広がりつつある。

・各学校園への研修サポートの実施

各学校園に向けて実施した研修等は以下のとおり

幼稚園環境設定研修（相山慈氏・社会福祉法人花の村）
CAP研修（子ども・保護者・教職員向け）（矢島宏美氏・あいづCAP）
都農町立都農中学校総合的な学習の時間「みちくさ市」視察 7/4
授業UD オンライン研修（菊地哲平氏）8/19
教育UD研修（前川圭一郎氏）9/22
大日向小中学校視察研修 10/6
ふつうアップデートプログラム実施（武田緑氏）11/19,20・3/2,3
不適切保育に関する研修（合同会社ひともじ）1/22
情報モラル研修（一般社団法人共生と共育ネットワーク）3/11
非認知能力に関するワークショップ（ボーク重子氏）全5回
特別支援に関する毎月1回の巡回相談（古島千尋氏）

【振り返り】

・各学校への教育プロジェクトマネージャーの配置

小学校2校、中学校1校に教育プロジェクトマネージャーを配置することにより、教育基本構想の実現に向けて、校長等の管理職とも連携をしながら、授業や校務分掌にも関わり教職員との関係づくりにも寄与した。来年度も継続してより実践を充実していく。

・各学校園への研修サポートの実施

学校園からの要請により実施した研修と、教育委員会として必要だと考え実施した研修とがあった。なるべく教職員の多忙感とつながらないようにしつつも、必須と考えられる学びの場づくりについては来年度も実施していく。

4-2-5 国際理解教育

内容	実施状況
英検の結果	状況説明
NZ 語学研修交流事業	○

【状況説明】

・英検

第1回受験者 18名

受験級：受験数(合格数) 5級:3名(3名) 4級:2名(1名) 3級:7名(2名) 準2級:6名(2名)

第2回受験者 14名

受験級：受験数(合格数) 4級:5名(3名) 3級:7名(3名) 準2級:2名(0名)

第3回受験者 12名

受験級：受験数(合格数) 5級:3名(2名) 4級:7名(4名) 3級:2名(1名)

・NZ 語学研修交流事業（令和7年11月22日（土）～11月30日（日））

磐梯中学校2年生 28名中 22名参加

【振り返り】

・英語検定の実施

今年度から英検の実施を教育委員会が担当することとなり公民館を利用して実施していく中で会場の確保や生徒への呼びかけの方法についてどのような進め方が良いのかを模索しながらの実施となっ

た。そのため実施の時間帯や当日の人員の確保について改善が必要な内容が出てきたため来年度に反映し、よりスムーズに進められるようにしていきたい。

また、受験者数についても増やせるような働きかけをおこない、小学生や一般も受験可能であることをアピールしていきたい。

・NZ 語学研修交流事業

来年度は秋季休暇を利用し、教員も希望者が研修として参加できるような体制、NZ 語学研修に参加しない生徒が個人で学びを進められる教育課程編成になるよう、学校の環境整備支援に努める。イングリッシュキャンプや外国人講師による事前学習の機会を昨年度より増やすなど工夫しながら円滑な事業実施に向けて取り組んだ。

4-2-6 幼保連携型認定こども園の開園準備

内容	実施状況
幼稚園内の幼児クラブカリキュラムの見直し	○
開演準備検討委員会における実施設計の検討	○
開演準備検討委員会におけるカリキュラムの検討	△
実施設計・建設工事の状況	○

【振り返り】

令和7年度については、認定こども園整備に係る実施設計については、開園準備検討委員会を4回開催し保育及び教育空間について話し合い、設計に反映してきた。建設工事については、11月に着工となり完成に向け施工している。令和8年度については、建設工事を継続して施工するとともに、認定こども園の運営面についても関係者と協議しながら進めていくこととする。

4-2-7 子どもの選べる放課後の整備

内容	実施状況
地域学校協働活動の充実	○
中学校の部活の地域展開の実現	△
まなびときばんだいの目的整理	○

内容	実施状況
移動の安全管理・手段の整備	△
バンダイの森の構想・計画整備	状況説明

【状況説明】

・バンダイの森の構想・計画整備

株式会社バンダイとの協働でどのような場にするか話し合いを進めており、「はじまるの森」という名称で、子どもたちが0から1を生み出す場所としてつくっていくことは整理された。川崎市の公設民営公園の子ども夢パークへ視察にも行き、引き続き話し合いを続けていく予定。

【振り返り】

・地域学校協働活動の充実

ほうかごあそぼーよ会や、夏祭りのおみせやさん活動などで小学生向けの活動を充実することができた。来年度にも継続して運営できるよう保護者との連携をより深めていく。

・中学校の部活の地域展開の実現

認定地域クラブを整備し、令和8年4月から運用を開始する。スタートから協力いただける個人及び団体には、最初から課題をすべて取り除いたうえで始動するのは困難であるため、始動しながら課題を解決していきたい。問題が発生した場合は都度協議し、よりよい方向に進んでいける組織にしていきたい。

・まなびときばんだいの目的整理

目的や使用方法等について整理することができたが、利用者にそれを伝え理解してもらうところまではいかなかった。来年度はより分かりやすく伝えていく必要がある。

・移動の安全管理・手段の整備

登下校時の児童生徒の安全管理については、学校だけでなく家庭と連携していく必要があることを、少しずつ理解してもらえるようになってきた。クマ対策による登下校などについても保護者の協力を得て実施することができた。来年度、学校選択制がスタートするため、スクールバスのルートの確保についても準備することができた。

・バンダイの森の構想・計画整備

町としてどのように進めていくのかを、株式会社バンダイと話し合いながら進めていく必要がある。時間はかかるが、視察や会議を通して、子どもたちのためにどのような場が必要なのかを子どもたちも含めて話し合い、整理していきたい。

4-2-8 給食の魅力化

内容	実施状況
地場産の食材を使った「献立づくり」	状況説明
持続可能性を重視した「食の循環づくり」	状況説明
たのしくおいしく食べることのできる「環境づくり」	状況説明
給食を「つくる」ひとたちとの顔の見える「関係づくり」	状況説明

【状況説明】

地場産の食材を使った「献立づくり」では、磐梯町の野菜「さとやまの慧み」や会津中央青果の「じものみつけ」を活用しながら、地元の野菜や県産の野菜を積極的に取り入れることができた。今年度6月、11月に行われた地場産物活用状況調査では、2回の調査どちらも県内で活用率1位を取ることができた。

給食を「つくる」ひとたちとの顔の見える「関係づくり」では、だんだん（NPO 法人 CPP JAPAN）さんに入らせていただきながら、研修を行うことができた。研修では、いつもは違うところで働いている方といっしょに行うことができた。

【振り返り】

- 地場産の食材を使った「献立づくり」は、地場産物の活用を積極的に行うことができたので来年度に関しても引き続き地場産物を活用した給食を提供していきたい。
- 食の「循環づくり」については、第一小学校の授業で少し学ぶことはできたが、仕組みとしてはできてはいないので、検討して行かねばならない。
- 「環境づくり」については、各学校園で少しずつ工夫されている様子も見られてきているが、たのしくおいしく食べるとはどういうことなのか？をもっと話し合える場が持てるとよい。

- 給食をつくる人たちとの顔の見える「環境づくり」は、少しずつ広がっていると思うが、主に給食センターのある第一小学校での取り組みになりがちなので、他の学校園でも実感できるようにしていく必要がある。

4-3 磐梯山慧日寺資料館

4-3-1 史跡慧日寺跡の整備基本設計

内容	点検方法
整備基本設計	○
検討委員会	○

資料：史跡恵日寺跡 整備基本設計書

【振り返り】

当初計画に基づき業務を推進し設計策定に至ったが、文化庁との協議・同意承諾にやや時間を要した(県を通してのやり取りでタイムラグ)。令和8年度は基本設計を基に実施設計に取り組んでいく。

4-3-2 磐梯山慧日寺資料館関連イベント

内容	実施状況
響（5/3）	○
月待ちの灯り（5/24~25）	○
きもだめし（8/2,9,23,30）	○
和泉流宗家狂言の世界（10/11）	○
秋の門前市（11/3）	○

【振り返り】

- 野外イベントは天候に左右された。過去の天気予報を分析して、比較的晴れる日に日程を組むようにする。
- 「あやかしの道（肝試し）」はPR不足（企画展のチラシと一緒に）で、申込者が少なかったため、次年度は単独でPRをする等、イベントの周知方法について検討する。

- 「秋の門前市」は悪天候のもとでの開催となったため来場者数の伸びには欠けたものの、文化祭会場との合同スタンプラリーを開催し、2会場を往来していただくことができた。次年度は相乗効果を含めて、さらなるイベントの周知を図っていきたい。

4-4 教職員の働く環境

内容	実施状況
水曜午後の余白の時間の確保の準備	○
校務支援 DX の推進	状況説明
教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の作成	○

【状況説明】

- ・ 校務支援 DX の推進

働き方改革にも繋がるよう校務用スマートフォンの来年度導入に向けて準備を進めている。

【振り返り】

- 来年度水曜日の午後に教職員の研鑽の時間を取れるように各学校の協力を得て教育課程を変更してもらうことができた。来年度は具体的な研修の場を月1回実施できるようにする。
- 教育委員会⇄各学校への各種調査物について、スプレッドシートを用いることで相互連携を図ることができ、事務の効率化と進捗状況の確認ができた。
- 教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画を、これまでの実績データをもとに作成することができた。来年度に向けて具体的な手立てを計画する必要がある。

第5章 総括と今後の展望

あたらしい「磐梯の教育」0-15 教育基本構想が令和6年9月に策定されてから、1年目となる令和7年度は、基本構想で語られる理念について教職員や保護者、地域住民に広く知っていただくことがひとつの課題となっていた。また、教育委員会の職員にとっても、方針の共通理解の場が必要になる場面が増え、全体会議を定期的に実施するようにもなった。「選択肢となり得る特色ある学校づくり」については、各学校園で理念を実践に繋げていくという課題を教職員に課すことにもなったため、教育委員会としてもできる限りのサポートと連携ができるように尽力してきたが、現場職員にと

ってはサポート不足となった部分もゼロではなかった。来年度は今まで以上に対話の場を持ちつつ、働き方改革についても強く意識しながらより良い連携の在り方を検討していく必要がある。

学校教育に限らず、生涯学習や文化財保護についても「地域と共にある」という点について、行事やイベント等を通して感じていただける場面は多かった。しかし、時代と共に参加者数が減少し、縮小などを検討せざるを得ないものも見えてきているため、すぐに辞める選択をするのではなく、新たな形で持続可能性の高い方法を見つけていくことが次の課題となっている。

関わる人皆が「おらが町」と感じ、自らの居場所を確認しながら、自分が動けば世界が変わるという実感を持てるよう、来年度もだれもが共に生きることのできる町づくりをめざした教育行政運営になるよう尽力したい。
